

Q & A 一 般 質 問

議員は「住民に代わって」村の行政全般に対して、事務の執行状況や将来の方針、計画あるいは疑問点などについて所信や疑問をたずることができます。

表紙は語る

7月中頃、若郷の漁船が大漁を祈願して朝6時に渡浮根港を出帆。天候は上々。タカベを狙った刺し網漁でこの日は式根島の足附沖と若郷の淡井沖で網を入れた。

漁法はアラミ役の2人がそれぞれの場所で海中の魚群の量を目視。これを決められた符丁で

（写真撮影は若郷・北村武氏）

村長はこの現実をどう捉えるか？新島村を

発展させていくにはどのような施策を展開していったらよいか？

産業の低迷が長期化するなかで、生活の安定を求める人たちが第一次産業から第三次産業へ流れたと推測している。

今後は地域資源を生かした特産品の発掘と後継者の育成が急務と考える。各産業団体と協力し、産業の活性化を進めていきたい。

送信し、網入れを決める。漁群を囲むように投げ入れ、船は網の中央に移動。ここで海水面を叩くなどすると、魚たちは四散し、網に突き刺さる。あとはおもむろに引き上げるだけ。

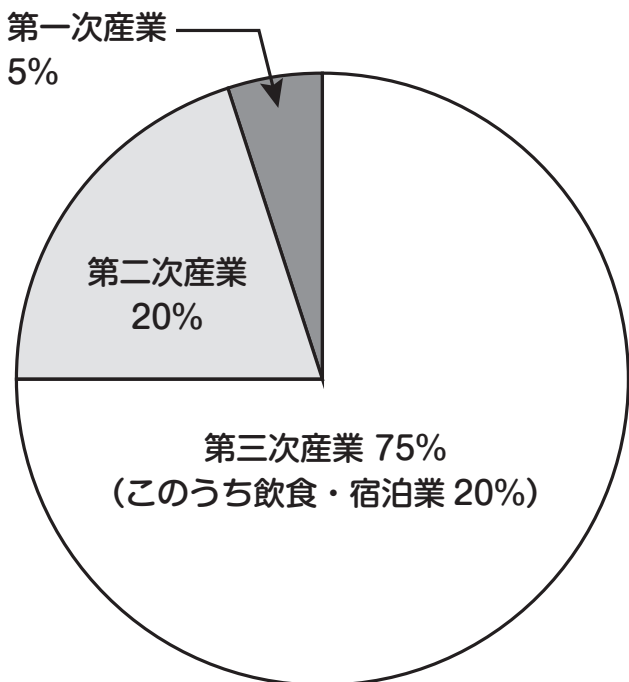
漁獲はどうだったか？この後、一晩、漁協に預け、明日、東京方面へ出荷とのこと。

山本均 議員



新島村の産業の未来は？

問 平成27年の国勢調査を元にした産業別の就業人口割合は下の円グラフのとおりとなる。



産業別就業割合（平成27年）

議会にいきかう言葉

次の定例会の開催日が決まるとこの一週間ほど前に議会運営委員会が開かれ、さらに10日ほど前に一般質問の通知書が各議員に配付される。これにより質問予定の議員はその概要を1問につき2百字程度にまとめて通告書として議会事務局へ提出する。

この通告書を提出した順が本会議の質

問順となり、本紙の記載順ともなる。質問内容には細かい制限はないが、通常、村長の政治姿勢や施策の方針など一般的・概括的なものを主とする。ただし個別・具体的な質問を排除するものではない。

次号では現状の一般質問の仕方と問題を探り、その改善策を考えてみたい。

今夏の観光はどのようなのか？

問

夏の観光に対する村長の基本的な考え・姿勢をお訊きする。

村がこれまで取り組んだ施策の評価、今後どのような事業展開をしていくのか伺う。

答

夏を控えて新島・式根島のポスターを都内の主な駅に掲示し、島じまん2018、物産展などでPRする。

昨年の夏の反省から夏の来島客が多いときに大きなイベントは開催せず、オフシーズンにするようにして誘客

のバランスを図っている。好評だったにしきの運航増便は今年も実施する。

6月から光回線サービスが始まり新たなコ

ンテンツの発掘、情報発信事業などによって新島・式根島の知名度を上げ、観光産業の活性化を図っていく。

国保税の制度改正への疑問

問

今回の国民健康保険制度の改正は保険者に東京都も加わり、

村はその下で徴収するのみで医療費の削減とは無関係である。

しかし国は医療費の総額（負担額）を減らすことが最終目的だから次に国保税を上げることが想定されるが、村長はこのことをどう考えているか？

答

国保税を減らしていくことが目的であり、それには病気になるらないよう「さわやか健康センター」での健康維持を強化していきたい。

また生活習慣病などを念頭に住民が健康でいられるようその増進を考えていく。



石臼川から式根島港をのぞむ（7月初旬）。

青沼 弘 議員

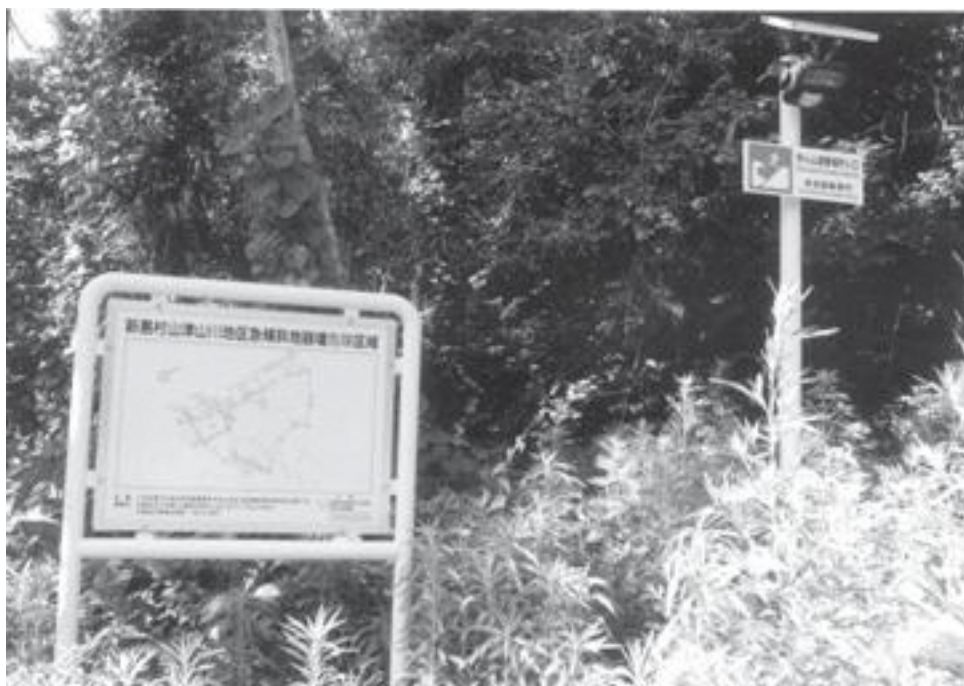


寺ん山避難場所は安全か？

問 急傾斜地崩壊危険区域内にある寺ん山避難場所は安全か？

答 新島村地域防災計画は平成27年度修正版が最新となり、その中で第一次避難場所は想定される最大の津波から安全な標高があることから寺ん山を避難場所に指定している。

平成29年8月に東京都が新島・式根島の土砂災害計画区域が指定されたことを踏まえ、



ここで大丈夫？新島小学校北側の寺ん山入り口。

今年度、村では地域防災計画の改訂を行う予定でいる。その中で寺ん山避難場所等の見直しを行っていく。

(※村では観音様への

避難を視野に検討を始める予定。)



大沼 弘一 議員



島外病院を受診する際の交通費等の助成制度について

問 助成制度は12月議会、3月議会でも

同じ質問をし、村長から実現にむけて大変心強い回答を頂き期待している。庁内で検討するように指示されたと同っているが、その後の進捗状況は？また課題は何か？各島と協議し東京都に要望していくとのことだが、その成果も含めて伺う。また今年度補正予算に措

置されるお考えがあるのか、合わせて伺う。

答 今年度中の助成制度新設を目指している。概略だが、全住民を対象に所得制限を設け年数回、一回あたりの固定金額を設定して実施することを年内をめどに考えている。

現在は東京都に対し要望活動は行っていないが、今後は財源確保にむけての要望を行っていききたい。

問 村の危機管理について

南海トラフ地震、豪雨等による土砂災害、火山噴火災害等の発生が大変危惧されている。村の危機管理体制は十分に確立されているのか？そして十分に機能するのか？また災害に対する住民への啓もう



活動や避難訓練等が少なく村全体の危機意識が薄くなったよう感じている。あらためて村長の防災全体に対する考えを伺う。

答 村の危機管理体制は地域防災計画の中で生命、身体及び財産を災害から保護することを目的としている。機能するかは常日頃の訓練や意識付けが必要と考える。

問 住民に対して啓もう・啓発を行って行く。防災訓練の内容は防災会議で検討する。

対策本部の中心となる総務課長は若郷支所長、議会事務局

長を兼務、防災担当主幹は廃止。雨により防災訓練が中止になれば一年間何の自主訓練も実施しない。職員や管理職は毎年変わり災害時の役割も変わる。危機管理は本当に大丈夫なのか？

答 災害時には若郷には副村長に対応させる予定で検討を進めている。

問 空き家対策について 村では今年3月に策定された「新島村空き家等対策計画」にそって事業を実施されていくものと大変期待している。事業の進捗状況、計画や課題があれば教えていただきたい。

また人口減少等により今後も空き家が確実に増えていくものと推



式根島の裏通り。昼なお静寂。

答 測するが、防災対策の観点からも危険家屋の除去等は喫緊の課題とおもいますが、いかがか？

進捗状況は空き家所有者への意向調査を6月末までに送付する予定している。また利活用の予定のない老朽家屋は危険度の高い順から立ち入り調査を実施して改善す

るための助言、指導を行っていく。

問 期待している。危険家屋等には様々な事情があると考えられる。早急に担当部署を設置して相談窓口を開設したらどうか？

答 現在担当はおいていないが、検討し設置するように努める。

前田 卓秀 議員



村内放送について

問 先日、島外在住の方が連れてきたペットの犬が迷子になり、搜索のため村内放



絶景かな。水平線に富士山を遠望する露天風呂。

答 村では生活情報のように不特定多数の利益になるもの、人命に関わる場合などは命に代わらないが、個人的なものはお断りしていただきます。

送をしてほしい、と要請したら断られたと聞くが、どうしてか？



湯の浜露天温泉について

問 先日、湯の浜露天温泉の浴槽が大変汚れていたが、なぜそのようなになったのか？ キッチンと清掃されてないのか？ その後どのような対処されたのか？

答 温泉の汚れには利用者からも指摘があり、担当課も把握していた。清掃員は昨年より2名体制で実施していたが、たびたび人員が不足する事態が発生した。委託先では清掃員の勤務体制や勤務時間などを緩和し、募集に努めているが、集まらない状況が続いて

いる。

現在、清掃日を決め作業を行っているが、委託先と協議を進め、良好な環境が提供できるように努めよう。



木村諭史 議員



産業団体会議の実施について

問 商業・観光業を担当する団体から産業分野の横断的会議

を行い情報共有をしていきたいという声が上がっている。ここ一年ほど役場主催の会議が行われていないのでないかと思われるが、その現状と今後の予定を問う。

答 ご指摘の通り産業団体会議はここ一年程実施していない。新しいイベントや大きなイベントの際には、個別に関係者と打ち合わせをして情報共有してきた。商業分野の横断的会議は、今後各団体の意見を聞いたうえで、できれば夏前に実施していきたい。

消防体制の課題把握と改善について

問 新島村の防災計画を見据えて、先日発生した火災からの教訓・反省を活かす必要



消防分団員による自主的なホース点検。
使用済みの点検はもちろん、新品も水を通しておく必要がある。

がある。①課題・教訓はなにか？②地域消防団での振り返り・共有・改善活動へのサポートはどうか？③消防団の訓練計画や防災計画への反映はどうするのか？また、議事録・消火要領・水利マップも団員がスマートフォンで見られるように検

討をお願いしたい。
答 火災後に消防団役員会議にて意見共有、改善策の話し合い、議事録を作成した。空港消防では各詰め所を回り、消火用ホース・防火衣などの点検を行っている。
6月の幹部訓練では、消火栓からのホース延

長を軸とした想定訓練を行う。中学校旧プール周辺の新しい水利も検討している。火災や行方不明者の確保・情報共有を含め、警察と協定を結んだところである。スマートフォンでの情報共有も検討していきたい。



ほっと
プレイス

コーガ石のある風景 3

ここは石白川海岸へ向かう下り坂、途中にある山本正利さん宅。
昭和40年代始めに建築。民宿と磯料理屋を営み、後者で評判を呼んだ由。現在、廃業し、伊豆の住まいとの間を行き来。